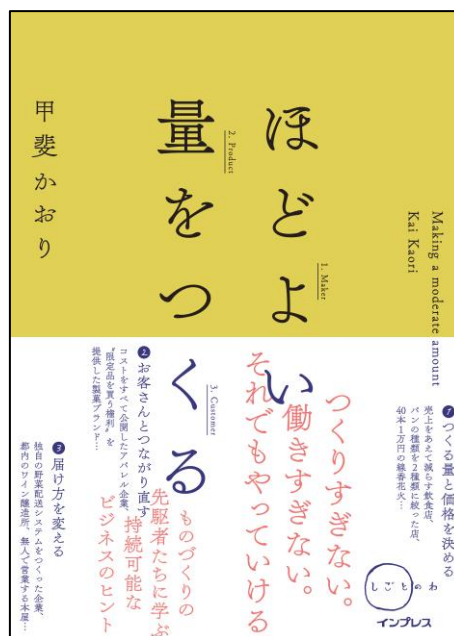


各 位

2019年9月24日
株式会社インプレス

つくりすぎず、働きすぎないビジネスを提案する
新刊『ほどよい量をつくる（しごとのわ）』
9月25日発売

インプレスグループでIT関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：小川 亨）は、持続可能なビジネスのヒントを先進的な事例から読み解く新刊『ほどよい量をつくる（しごとのわ）』を2019年9月25日（水）に発売します。



■ 「ほどよい量」を成立させている人や企業の創意工夫をひもとく

できるだけ大量につくって、できるだけ大量に売る。できるだけ多くの人に知ってもらって、できるだけ多くの人に届ける。それが「当たり前」として、私たちの仕事や生活は成り立ってきました。そのような中で、つくる量や売る価格、届け方を自分たちでコントロールする「ほどよい商い」をしている人たちがいます。彼らに共通しているのが、ほどよく働いて、ほどよく成長しているということ。本書では、先進的でユニークな事例を取り上げながら、大量生産や大量消費とは異なるエコシステムをどのように構築したのかをひもといていきます。

SDGsや食品ロスといったキーワードに感度の高い層、そして働き方や新しい事業を模索しているビジネスパーソンなど、多くの方々にとって目からうろこのビジネスヒントがつまっています。

<本書で取り上げている「ほどよい」事例の一部をご紹介>

- ・売上をあえて減らす飲食店
- ・パンの種類を2種類に絞った店
- ・業界では考えられない40本で1万円の線香花火
- ・コスト設計をすべて公開したアパレル企業

一〇〇食売り切ったら営業を終了する

毎日「一〇〇食しか提供しない」と決めている飲食店がある。京都で国産牛のステーキを提供する「〇〇食屋」。オーナーの中村朱美さんは、笑ってこう問いかける。

「だって売上って、それほど上げる必要がありませんか？」

営業は十一時〜十四時半のお昼のみ。毎日、コンスタントに一〇〇食限定で売り切る。メニューもたったの三種類。一店舗につき五人のスタッフが九〜十七時半の勤務でまわしている。従業員は三人でそのうち正社員が一人。二〇一九年八月現在、国産牛ステーキ井の専門店に加えて「すき焼き専科」「肉寿司専科」「〇〇食屋1/2」の計四店舗を経営している。

大きく儲からない代わりに、残業なしで家族そろって晩ごはんを食べられる生活を保証

する。給与体系やベースアップなど主な条件は他の企業と変わらない。

早いときには朝九時頃から整理券待ちのお客さんが店の前に並び始める。各店舗一〇〇食を売り切れば十二時前でも整理券を配るのは終わり（〇〇食屋1/2では五〇食限定）。二〇〇〇食にすれば、もっと売れるのに」と多くの人は思うだろう。

「でも増やすと、その分仕込みをしなければならぬ量も増えますし。仕事を時間が増えますよね。それは避けたいんです」

なぜ会社は売上増をめざさなくてはならないのだろう。従業員のため？ 株主のため？ 中村さんの話を聞けば聞くほど、どうして今までそうした会社がなかったのだろうと不思議にさえ思えてくる。会社の利益より働く個人のメリットを優先し、本当にいいものを必要な数だけつくって売る。従業員も最低限必要な時間だけ働く。それで最大限の売上をめざしても、それ以上の拡大はめざさない。

私自身、会社員として働いていた頃は毎日夢中で夜遅くまで働いた。今ほど「ブラック」な働き方に対してうるさくない時代だったし、自分が楽しかったので会社のせいとはみじんも思っていないけれど、「一生ここで働くのは無理だな」と常に感じていた。

その点、中村さんが実現する職場は理想的だ。今は大手企業であれば残業も減っていると聞く。だが飲食業界では、いまだ厳しいよう

事例をまじえた読みやすい紙面が特徴です。

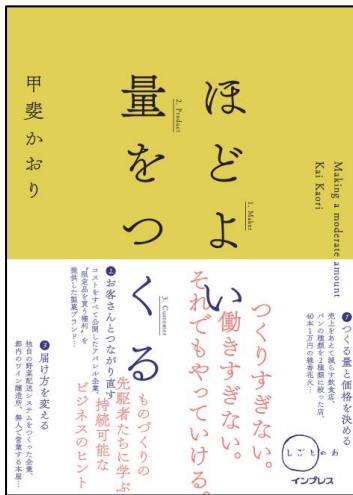
■目次

- I つくる量と価格を決める
 - 1章 つくる量を減らす
 - 2章 ほどよい量を探る
 - 3章 価格を適正に上げる

- II お客さんにつながり直す
 - 4章 プロセスを見せる
 - 5章 つくる人が売る
 - 6章 コミュニティ経済圏を築く

- III 届け方を変える
 - 7章 物流をデザインする
 - 8章 売り場を変える
 - 9章 違う相手に届ける

■書誌情報



書名：ほどよい量をつくる（しごとのわ）

著者：甲斐かおり

発売日：2019年9月25日（水）

ページ数：232ページ

サイズ：四六変形判

定価：本体1,600円＋税

電子版価格：1,600円＋税 ※9月発売予定 ※インプレス直販価格

ISBN：978-4-295-00746-3

◇書誌情報：<https://book.impress.co.jp/books/1119101054>

◇書影ダウンロード：<https://dekiru.net/press/500746.jpg>

■著者プロフィール

甲斐かおり

フリーライター。長崎県生まれ。会社員を経て、2010年に独立。日本各地取材し、食やものづくり、地域コミュニティ、農業などの分野で、昔の日本の暮らしや大量生産大量消費から離れた価値観で生きる人びとの活動、ライフスタイル、人物ルポを雑誌やウェブに寄稿。携わった書籍に『ソーシャルデザイン』『日本をソーシャルデザインする』（以上、朝日出版社）、取材本に『暮らしをつくる』（技術評論社）

◆しごとのわレーベルとは

仕事について考えるとき、成果や時間、お金を意識することがあっても、輪を意識することは少ないのではないのでしょうか。小さい輪でも大きな輪でも構いません。会社や家庭、地域、過去と未来、わたしとあなた。切り離さなければ、輪はできます。仕事を考えるときそんな輪を大切にしたいという思いからミシマ社とインプレスの2つの出版社で起ち上げたレーベルです。

◆株式会社ミシマ社について <http://mishimasha.com/>

2006年10月に東京・自由が丘に三島邦弘氏が創業したほがらかな出版社。現在は11名のメンバーとともに「原点回帰」を標榜した出版活動を行っています。一冊入魂の出版活動に全国の書店員に支持者が多く、現在は、東京・自由が丘と京都市内の2拠点で活動しています。

以上

【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計7,500万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watch」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」、「SmartGrid ニュースレター」、「Web 担当者 Forum」等の企業向けIT関連メディアブランドを総合的に展開、運営する事業会社です。IT関連出版メディア事業、及びデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：唐島夏生、証券コード：東証1部9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「旅・鉄道」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

TEL：03-6837-5034 E-mail：pr-info@impress.co.jp URL：<https://www.impress.co.jp/>